十勝リハビリテーションセンター

2024年 秋号

REHAMAGA

「食べる」喜びが「生きる」力に

～ リハビリ多職種連携チームによるオーダーメイドプログラムの紹介 ～

社会医療法人 北斗
十勝リハビリテーションセンター

食べる喜び、生きる喜び。

噛む・飲み込む力を回復することで、失われた「食べる」喜びをとり戻し、かけがえのない人生を歩みましょう。
リハビリ多職種連携チームによるオーダーメイドプログラムで、患者様一人一人に合ったサポートを提供します。

噛む力について

歯科医病棟訪問（歯科処置室完備）

開院当初より、他職種と連携を図りながら、口腔ケアならびに歯科治療を行なっています。回復の過程に沿って、時には病室のベット上で、または車椅子上でも必要な処置を行うことは可能です。歯科専門職による適切な介入を行うことは、アウトカムの改善に役立ちます。

歯科衛生士病棟訪問（毎週）

病棟が日々行う「日常的な口腔ケア」でも口腔乾燥や汚れなど口腔環境が改善されない患者様に対し、歯科衛生士が「専門的口腔ケア」に介入し適切な口腔ケアグッズの選択・清掃方法等を病棟スタッフや患者様に指導・助言することで効果的なケアへ繋がります。

義歯に不具合があると噛む・飲み込む等の摂食や発音、見た目にも影響がでます。適切な処置は不可欠です。

歯だけでなく義歯や舌を綺麗に保つ事は口腔や全身の健康維持にも繋がり美味しく食べる事への源となります。

口腔ケア委員会

委員会では、入院されている患者様の口腔状態を把握し、口腔機能の維持・回復のために必要なケアを提供することを目的に活動しています。
入院中の患者様にとっても食べることは生きる楽しみであり、活力に繋がっていきます。
そのため他職種連携をしながら、口腔ケアの知識・技術の向上をはかり、患者様のQOLの維持・向上に努めていきます。

歯科医師より

「回復期」にある患者様は、日常生活を再構築するため、日々心身のリハビリテーションに取り組んでおられます。そのためには、口腔内の状態を良好に保つこと、しっかりと栄養を摂取することは大変重要です。口の機能の回復を目的とした歯科治療を受けることが、全身の回復にもつながりますので、万全のサポートを行います。

籠島 弘子

歯科衛生士より

看護師さんや言語聴覚士さんから歯科治療や口腔ケアについて相談を受ける機会も増え、十勝リハビリテーションセンターでの歯科診療が浸透していることを実感しています。経管栄養だった方が入れ歯を作り経口摂取が出来るようになったり、口腔ケアで歯磨きの練習をして自分で少しずつ上手に磨けるようになったりとリハビリの効果に日々感銘を受けています。

森下 佳那子

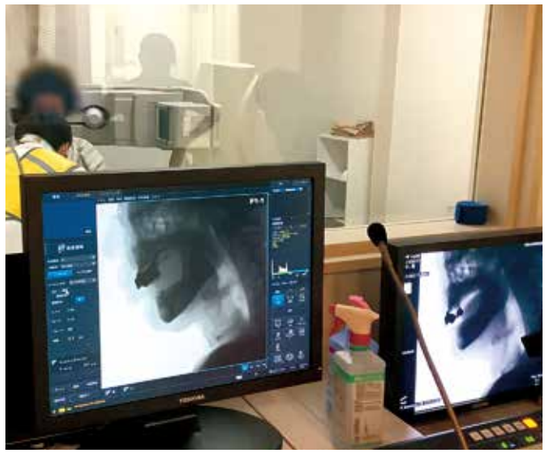
飲み込む力について

症例紹介

- **年齢・性別／**
  50 歳代・男性
- **診断名・障がい名／**
  脳梗塞（右小脳・右延髄外側）
  嚥下障害
- **現病歴・経過**
  脂質異常症、高血圧症などあったが受診せず。発症時、起床した際からめまい、後頚部痛あり。症状の改善無く救急要請し、北斗病院へ搬送。頭部MRIで脳梗塞の所見あり、脳神経外科入院。嚥下障害あり、経鼻経管栄養開始。その後、VF（嚥下造影検査）を行うが経口摂取は難しく、本人の希望もあり、内視鏡下胃瘻造設術施行。
  経口摂取再獲得目的で当センター転入院。
- **ご本人の希望**
  食べられなくてもいいから早く帰りたい。普通に食べられるようになる。
- **目　標**
  食材や食事形態の制限なく、普通に食べられる。

行った治療について

VF（嚥下造影検査）／VE（嚥下内視鏡検査）



VF防護服

VFによる嚥下機能評価の結果、1度目のVF後に昼食1食から食事を開始、2度目のVF後には食事形態を米飯・常菜食に向上させることが出来ました。また、VEは咽頭や声帯を直接観察することが可能で、必要に応じてVEを使用することもあります。

バイタルスティム

飲み込む力を強くするために、喉頭周囲の筋に電気刺激を行うことで、嚥下筋の筋力増強を図りました。今回は使用していませんが、同じように電気刺激を行うジェントルスティムという機器もあり、嚥下反射が惹起されにくい方にはそちらを使用することもあります。

直接的嚥下練習

訓練食

嚥下機能の向上に合わせて、食事形態を調整しながら経口摂取を練習しました。入院当初はゼリー数口から始まり、ムース食、刻み食、軟菜食、常食とステップアップしました。食道入口部を広げるためにゼリーの大きさを調整して丸呑み練習なども行いました。

症例に携わった言語聴覚士より

転院当初は唾液すら飲めず、毎日ティッシュ 1 箱を消費していた患者様でした。誤嚥による肺炎リスクもあり、詳細な嚥下機能評価が必要でした。機能に合わせて慎重にリハビリを進め、無事 3 食常食となり退院されました。「練習で初めて『かっぱえびせん』を食べられた瞬間の感動は忘れられない。」との言葉をいただき、改めて食べる喜びの重要さを感じました。

小野 大輔

TOKACHI REHABILITATION CENTER

TOKACHI REHABILITATION CENTER

INFORMATION

社会医療法人 北斗
十勝リハビリテーションセンター × SONY

回復期リハビリ病棟でAI予後予測、ソニーネットワークコミュニケーションズと十勝リハビリテーションセンターが共同開発

ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社（以下、ソニーネットワークコミュニケーションズ）と十勝リハビリテーションセンターが共同研究を行い、AIを用いた退院時の予後を予測するモデルを開発し、全国の病院に提供していくこととなりました

十勝リハビリテーションセンターでは、ソニーネットワークコミュニケーションズが提供する AI 予測分析ツールである「Prediction One」を導入し、回復期リハビリテーション病棟に入院した患者様の予後を、できるだけ正確に予測できるように取り組みを行っております。今回、当センターでリハビリテーション治療を受けた患者様のデータを活用させていただき、AI を活用した解析をソニーネットワークコミュニケーションズにおいても検証を行い、全国の病院でも充分に活用が可能なレベルのソリューションとして提供を開始することとなりました。十勝での取り組みが全国の医療の質向上に繋げられる可能性があることを嬉しく感じております。また、全国で活用されることで更なる精度向上が期待できるため、そのデータを十勝でも活用して参りたいと考えております。

予後予測AIモデルと精度

歩行動作の予測
退院時／移動FIMが6以上となるか
AUC **92.6** %

トイレ動作の予測
退院時／トイレ動作FIMが6以上となるか
AUC **92.3** %

運動項目FIMの予測
退院時／運動項目FIM合計の数値予測
誤差中央値 **6.2**

FIM：機能的自立度評価表　AUC：予測モデルの予測精度

Prediction **One** for Rehabilitation

入院患者のFIMデータをAIに入力することで「歩行動作」・「トイレ動作」・「運動項目FIM」の予後予測を高精度に行うことが可能

社会医療法人 北斗
十勝リハビリテーションセンター

〒080-0833 帯広市稲田町基線2番地1
☎ 0155-47-5700
FAX 0155-47-5701

お電話対応時間 平日／9:00〜17:00、土曜／12:00まで

- 帯広駅から車でおよそ20分
- 十勝バス「十勝リハビリテーション前」より徒歩2分